HOT message

―― 座談会 & 対談 ――

「働く」のこれからと今。
～香川から、それぞれの視点～

【出 席】

筒井　有加 氏
T.HC Lifenavigation
代表
香川同友会三豊支部

勝村　岳世 氏
香川大学・起業家
学生

山下　万由子 氏
高松商業高校
学生

荒川　雅生 氏
香川大学 創造工学部
教授

真鍋　康正 氏
高松琴平電気鉄道㈱
代表取締役社長

【司 会】

筒井　まり子 氏
広報・情報化委員会
FooDoo's　代表
香川同友会中讃第１支部

はじめに

「働き方改革」や「ワーク・ライフ・バランス」などの言葉がいろいろなところで聞かれる中、《働く》ことに対して一人一人求めることが変化してきている時代だと感じます。

その「変化」とは何なのか？ 変化に対応していかなければ、これからや今を担う人材の獲得、そして会社自体の未来にも関わってくるのではないかと思います。

《働く》が多様化している現在、今まさにこれからを担い働く30代の社会人、これから働くことを考える高校生、学生でありながら事業を展開する大学生、働くまでの教育者・人材を育てる先生、香川をベースに経営展開する経営者、《働くこと》と《地域（香川）》に熱い思いを持ったゲスト5名にそれぞれの視点から生の声をお届けしたいと思います。

多様化している時代だからこそ、考え方も多様であると考えられます。今、何がどう「変化」していてそれには何が「必要」なのか、私たち経営者は知る必要があると思います。

これからの経営にこの気づきを活かしていただくために「働くのこれからと今」というテーマで繙いていきます。

視点 -1-

30代女性経営者 これから働くことを考える高校生 事業を展開する大学生

筒井(司会) 香川で働くという事にとても強い思いがあるなと皆さんに感じています。筒井さんにお伺いしたいのですが、お子さん3人を育てながら仕事とイベントも企画されたり、とてもアクティブで本当に尊敬しているのですが、『ワーク(仕事)ライフ(生活)』のバランスはどう保っているのですか?

筒井 率直に言うとバランスは保てていません(笑)。一般的な理想のお母さんではありませんが、一緒に居れる時間は少ないけど、その中で私なりの『母』という考えを伝えられるようにしています。働き出した当初は、母としての役割ができずに仕事に偏ってしまっていたことがコンプレックスで世間の目を気にしていました。でも今は、私にしかできない母の役割が出来ているんじゃないかなとやっと最近思えるようになりました。

筒井(司会) 自分の中でのバランスが子供にも伝わり、仕事を軸にして親も子も共に成長しているのですね。私と筒井さんは同じ年齢で、私は子供もまだ居ないので本当に尊敬します。では、山下さんにお聞きしたいのですが、その前に私と山下さんとの出会いをお話しすると、弊社(FooDoo's)のホームページに「将来デザインの仕事がしたい高校三年生です! お話したいです!」と問合せが来て、そして山下さんの名前が私の親友と全く同じで、こんな偶然あるのか!?と半信半疑でした(笑)。でも実際会って、数あるデザイン会社から選んでくれて勇気を出して連絡をしてくれたのかと思うと、少しでも色々してあげたいなと思いました。山下さんは大学進学を控えていて、でもその先の働く事を今からすごく考えていますが、働く事を考え出したきっかけは何ですか?

筒井 まり子 氏

山下 まず高校2年の時、大学に進学するという進路を考え出した時に「大学って何のために行くんだろう?」と考えて、将来の夢に繋げる為の大学になら行きたい、将来の夢を見据えて必要な事が学べる大学に行きたいと思いました。そのためには、自分で調べるという行動に移しました。でも今時の高校生は自分で調べるという事をしないのです。

筒井(司会) スマホとかを当たり前に使える世代だと思っていたから逆だと思ってました。

山下 流行ってる事や欲しいものは調べますが、『将来』について調べるということはしないです。将来の夢も持っている学生は居ますが、周りから入ってくる情報だけで、職業の種類も知っている中から、それを夢にしてしまっている学生が多いです。知らない職業は夢に出来ないのです。私も自分で調べる事をしていなかったらデザイナーという職業も知らなかったです。今は何でも知りたいです!

筒井(司会) 自分の周りの親や友達、先生には聞けるけど、全く知らない人に一歩踏み出して聞いてみようと思って実際行動する事が素晴らしいですね! では、今大学生で、既に働くことを実践されている勝村さんは、出身が広島県ですが、なぜ香川の大

山下 万由子 氏

学に進学しようと思ったのですか？

勝村　大学を選んだ理由はありません。ただ、勉強がそんなにしたくないっていうのだけあって（笑）。以前通っていた高校に今の大学の先生が出張授業に来ていたのです。その先生と仲良くなってご飯も食べに行ったりしていました。

筒井（司会）　それはすごく合理的というか、コミュニケーション能力とか自分の見せ方をちゃんと分かった上でないと出来ない事ですね！セルフブランディングがきちんとされているなと感じます。

勝村　そこはすごく大事にしています。今、盆栽を海外に輸出する仕事と、物件をリノベーションして貸別荘をしています。どちらも幅広くアプローチする必要がないと思っていて、ニッチでそこに信頼がどちらの事業も大事だと思っています。

筒井（司会）　起業したきっかけは何ですか？

勝村　まず、大学に入った時、自分の英語の勉強の為に外国人に泊まってもらえるようにカウチサーフィンに登録しました。それがすごく楽しかったのが一つ目のきっかけです。二つ目は、工学部の学生なので就活でプログラミングをやってみたのですが、自分には向いていないなと分かった事です。三つ目は、ネットビジネスを始めたのですが、人との交流がそこには無く、悩んでいた時に自分を癒す為の盆栽にそこで出会いました。民泊を利用してくれた最初のフランス人のお客様が盆栽が大好きで、その方に盆栽を教えて頂いたのです。自分の中でのいい仕事は二つ要素があるなと分かりました。一つは、自分が圧倒的に心地良いと思える仕事である事、そして二つ目は、それが人の為であるという事。なので盆栽を造る職人は本当にリスペクトしています。

筒井　有加 氏

筒井（司会）　筒井さんの保険を販売する仕事も、勝村さんの仕事も、お客様が教えてくれる事やお客様からの信頼が一番大切ですね。

筒井　一言で言うと思いを繋げる仕事だと思っています。

筒井（司会）　筒井さんは、同友会に入るきっかけは何だったのですか？

筒井　何をやっても上手くいかない時期がありました。本やネットで立派な解決方法を模索してもそれにはリアリティが無くて。でも同友会にはリアリティがありました。素直に皆さんの考えを知れて持ち帰って自分も頑張ろうと思える場所だと思っています。

筒井（司会）　どんな職業、体制でも仲間って本当に大切な存在ですね。困った時に助け合える仲間をつくるには信頼関係が必要ですね。まだまだ聞きたい事沢山ありますが最後に皆さんに、これからしたい事、そして香川とはどういうところですか？

山下　まだまだ知らないことが香川、高松にあると思いますのでそれを知りたいし、香川で新しい事をしたいです！大学生になったらいっぱいしたい事があります！

勝村　自分とお客様、そしてそこに関わってくださる方の三者に幸せになっていただきたい。香川には世界に通用するものがまだまだ沢山あると思います。

筒井　年を重ねてもキラキラしていたいと思っています。その為には、生命保険を通じ役に立ち、更に雇用を生み出す事で地域に貢献し、それが自分にも繋がっていくと思っています。

筒井（司会）　皆さんの今後が楽しみです。これからの香川を担ってくれると期待しています。

勝村　岳世 氏

視点 -2-

働くまでの教育、人材を育てる先生

筒井（司会） 今年4月に創設されたばかりの香川大学「創造工学部」とはどんな学部ですか？

荒川 ENGINEERING and DESIGN と表記した方が馴染みがあるでしょうか。今までの工学部（エンジニアリング）の部分にデザインの要素を加えていこうということです。当初クリエイティブエンジニアリングという名称の候補があったのですが、海外の色々な方に聞くと「クリエイティブ」は「神様の仕事」なんだと教えられました 笑。

筒井（司会） クリエイティブってとても便利な言葉でよく使っていましたが、これもグローバル視点で考えると知っていると知らないとでは大きな違いですね。

荒川 創造工学部では、『次世代型工学系人材』を育てたいのです。今までは、技術開発でものづくりをしていました。しかし、これからは『未体験の価値を生み出せる人』すなわち『イノベーションを起こせる人材』です。

筒井（司会） イノベーション人材！その為に何が必要なのでしょうか？

荒川 技術力はもちろんですが、これに『デザイン思考能力』と『リスクマネジメント能力』が必要です。iPod（2000年）はご存知ですよね？ちなみに日本でも既にiPodと同じ機能の技術開発は出来ていましたが、二つの理由から商品化には至らなかったのです。ですが、アメリカでスティーブ・ジョブズがイノベーションを起こしたのです。たった二つの問題解決（音楽の転送速度を高速化＆iTunesからPCを経由して音楽データを取込む）をしたのです。

筒井（司会） でもジョブズのような人材は育てる？ものなのでしょうか？

荒川 ジョブズは間違なく「天才」です！しかし、イノベーションは天才だけで起こせるものではないと考えています。そこには必ず「チーム」が存在してチームワークが必要なのです。

筒井（司会） チーム、社会に出て働くという事と直結しますね。

荒川 香川大学の7割くらいの学生は、親御さんの希望や思いを汲んで「地元で就職したい」という思いが強いです。香川にはいい会社が本当に沢山あると思います。でも親御さんが知らない。これが一番大きな問題点だとも思います。例えばテレビCMをよく見る会社だけがいい会社だという事。私が思ういい会社は、まず安定していて人が辞めない。それには相互のコミュニケーションがちゃんとあり、お互いにとって居心地の良い環境が作れているかという事だと思います。

筒井（司会） その為の連携や取組みはされているのですか？

荒川 年間で15社程の企業に授業（PBLという取組み）をしていただいています。そのまま就職する学生もいます。企業にはどんどん大学にPRに来て頂きたいです。学生は地元の会社を知らないのです。

筒井（司会） PRしたい企業が殺到しそうです！学生も情報を待っていて企業も学生を待っているというお互い待ちの状態になってしまっているのですね。

荒川 創造工学部というと工業系や技術系と思われますが、全く違った業界にも興味を持っていただいており、是非イノベーション人材を採用したいと今から言っていただいています。同じ考え方の人材ではなく、イノベーション人材によって全く新しい価値や商品を生み出せる起爆剤となってくれる事を企業は生き残りをかけて探しています。

筒井（司会） まさに今とこれからを変化させ、生き残るために必要なイノベーション人材を創造工学部は生み出そうとしているのですね！最初の卒業生がどんな所で活躍されるのかすごく楽しみです！

荒川 雅生氏

視点 -3-

香川をベースに経営展開する経営者

筒井(司会) 多様化している今、真鍋さんは様々な会社を経営されていますが、それぞれの事業にどんな思いがあるのでしょうか？

真鍋 すべて生活のインフラとなるサービスで、特に『人の移動』を支えているという意識が私にはあります。老若男女、障がいを持った人や外国から来た旅人など、あらゆる人が自由に移動して行きたい場所に行ける街は、多様な人々が出会える街であり、豊かな文化が生まれやすいのだと思います。その豊かな文化を支える企業グループだという思いで経営しています。

筒井(司会) 想像しただけで楽しい街ですね！真鍋さんは、ご自身の会社にこれからどんな人材を求めていますか？

真鍋 誠実な人です。仕事は小さな約束を守る事の繰り返しだと思います。同僚やお客様に信頼される誠実な人である事が何よりも大切だと思います。

筒井(司会) 信頼関係があるからだと思うのですが、『ことでん』は面白い事を色々されていて、すごく厚かましいですが、真鍋さんらしいなと思っています。こういう企画はどんな風に作られているんですか？

真鍋 鉄道会社は、安全第一でルール厳守というような堅いイメージがありますよね。でもここ10年くらい多くの人達と話をして色んな企画を実現してきた事で、ことでんを舞台に「何をやってもいい」という雰囲気が出てきたように思います。ちょっとしたアイデアでも相談しやすい会社になろうとしてきた結果、色んなアイデアが社内外から生まれるようになってきました。

筒井(司会) 時代の変化は感じますか？その変化に対応するためには。何が必要になってくると思いますか？

真鍋 テクノロジーの進化に対応しなければいけません。スマホで何でも買えて、すぐ届くという時代に人はなぜわざわざ移動するのでしょう。移動の理由が今大きく変わりつつあると思います。鉄道もバスも移動手段であって、移動には目的があるはずです。人が移動する目的をしっかり考えながら仕事をしていく必要があります。さらに自動車の自動運転精度が向上してくると、公共交通の役割が大きく変わると思います。自動運転とカーシェアの進化で、鉄道やバスが必要ない世界が来るのかもしれません。世界がどう変わっていくか注視しながら、それでも人の移動をサポートする企業でありたいと考えています。

筒井(司会) 人と環境が共にバランスを取りながら進化していかないと、この世界はどうなるのだろうと不安になります。その世界の一部である香川でこれからどんな事をしたいですか？

真鍋 安全・サービスの向上を目指すのはもちろんですが、地域に沢山いる若くて意欲があるリーダーを応援していきたいです。新しく生まれる事業が雇用を生み、社会を明るくし、不便や不公平を解消する事ができるよう、応援したり一緒に汗をかいて手伝っていきたいです。

筒井(司会) 同じ目線で考えてくれる事が嬉しいです！

■取材を終えて

5名の方に共通していた事は、人との『向き合い方の姿勢』だと私は感じました。素直に言葉にして人を褒めたり行動できる人は、年齢や立場を問わずに本当に魅力的だと思います。その魅力に人が人を繋ぎ、その会社や地域、世界は豊かになっているのだと思います。今回の取材を通じ、香川という地域、そして自分の周りの人たちに感謝をしないといけないなと切に感じました。様々なものが変化しても、最も必要なものは『心の豊かさ』なのではないかと、そしてその『心の豊かさ』は決して変化してはいけないものだと思いました。

真鍋 康正 氏